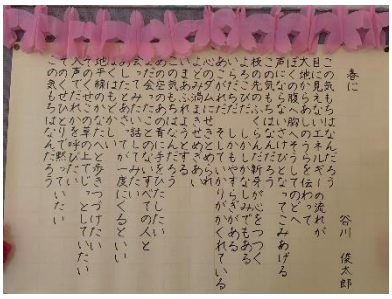
未来を夢見て

2020/5/1　No. 6

今、私たちにできること

～臨時休業の延長にあたって～



校舎１階の廊下に谷川俊太郎さんの「春に」の詩が掲示してあります。「この気持ちはなんだろう」というフレーズの繰り返しが印象的な素敵な詩です。

今日から５月。木々の芽が膨らみ、新緑の美しい季節になりましたが、心から喜びを感じることはできません。

緊急事態宣言の延長が確実な情勢になり、予定していた５月７日の学校再開、入学式の延期が昨日決まりました。今後のことは国や県の方針を受けて決まりますが、更なる休校措置の延長は避けられないような情勢です。３月２日から続いた休校措置。事情はともかく、ここで更に延長となると、今まで以上に子供たちの心身の健康や今後の学習面での支援をどう行うかが問われます。

とはいえ、やはり怖いのは感染拡大のリスクです。８１９名の児童と６０名の職員が生活する本校であれば尚更です。

そこで、現在、今後の更なる休校措置の延長を想定し、学校としての対応について検討しています。１つは学習面です。課題を与え、それを評価し、どう子供たちに返すのか、通常の学校生活では当たり前のことですが、これができないのが辛いところです。緊急事態宣言が出されている現状と、たくさんの児童がいる本校では、子供たちを集めることはやはり危険です。そこで、徳田教頭先生が発案し、今野さんの腕を借りて、**２４時間対応小野小オリジナルの課題回収ボックス**を作成しています。課題の配付は私たち教員が、回収には申し訳ありませんが保護者の皆様にお力をお借りしようとする計画です。今回の休校期間は、どのくらいの長さになるか分かりませんが、**課題の提示→回収→添削→返却のシステムを確立**することがねらいです。また、担任から一人一人の子供たちに電話をすることも新たな取り組みです。こちらは安藤教頭先生が、先生方が三密を避けて８１９名の子供たちに電話してもらえるように計画を立てています。まだ顔も会わせていない状況です。短時間でも直接子供たちの声を聞くことが最大の目的です。懸案のオンライン授業は、あと一歩のところでしたが、堀田先生が立ち上げたクラスには、既に３０名以上の職員が参加する盛況ぶりです。近い将来、間違いなく、この Google Classroom を実際に活用する日が来るので、慣れていて損はありません。まさに生きた校内研修ですね。

さて、研修、といえば５月号の『教職研修』の巻頭インタビューで梶谷真司先生が紹介されていました。「哲学対話」に関心のある方は、先生の著書とともにぜひお読みください。また、明日の NHK　ETV 特集「７人の小さき探求者～変わりゆく世界の真ん中で～」で「探求の対話（p4c）」の宮城県内での実践が再放送されます。学校再開後の子どもたちの「心のケア」をイメージする際の１つの参考にしていただければ幸いです。

（文責：手代木）